

ふでがさき
筆ヶ崎古墳群（第4次）

【所在地】：四日市市小牧町 地内

【位置情報 URL】： <http://www.gis.pref.mie.lg.jp/mmm/index.html?z=256&ll=35.04988657407407,136.5847175141243>

【主な検出遺構】：縄文時代 — 埋設土器 古墳時代 — 円墳

飛鳥～奈良時代 — 掘立柱建物・掘立柱塀・竪穴建物・竪穴状遺構・土坑 など

発掘調査が終了しました！！

昨年8月に始まった筆ヶ崎古墳群・筆ヶ崎西遺跡の調査は、2月に終了しました。約7箇月に及ぶ調査となりました。ここでは現地説明会（12月2日開催）以降の調査成果をお届けいたします。



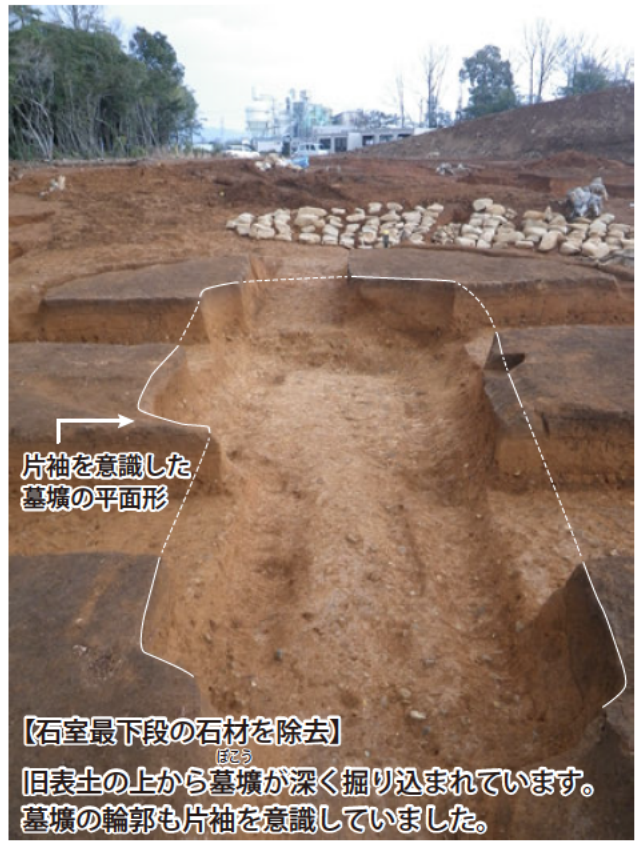
筆ヶ崎古墳群は古墳時代終末期の横穴式石室をもつ円墳10基で構成されることが分かりました。

今回の調査では、そのうちの2基（7号墳・11号墳）を調査しました。特に7号墳は横穴式石室の造り方がよく分かる事例でしたので、その成果を中心にご紹介いたします。

古墳群の周辺では飛鳥～奈良時代の集落跡を発見しました。掘立柱建物6棟、掘立柱塀、竪穴建物3棟、竪穴状遺構（大型土坑）4基、土坑や多数の柱跡などを確認できました。



【石室最下段の石材の配置】
かたぎで
片袖式石室の平面形がよく分かります。



片袖を意識した
墓墳の平面形

【石室最下段の石材を除去】
旧表土の上から墓墳が深く掘り込まれています。
墓墳の輪郭も片袖を意識していました。



【石室と墳丘の関係】
旧表土層の下では石室石材を墓墳埋土で控える。
旧表土層の上では墳丘盛土で控えています。



【羨道の構築】
左の写真と同様の工法がうかがえます。
小さな川原石を巧みに積み上げています。



【石室石材の積み上げ】
川原石を積み上げるのはむずかしい。



石の間にはたくさんの
土が詰められています

【石室石材の積み上げ】
土を詰めることで安定させています。

川原石を用いた石室の構築には、絶妙なバランスの確保が必須条件です。その正体は石の間に詰める“土”を用いることでした。今回の調査では、こうした古墳時代終わり頃の古墳の特徴が分かりました。

古墳の調査は今回で終了ですが、今後も周辺に広がる飛鳥～奈良時代の集落の調査が続きますので、新しい発見にご期待ください。

【問い合わせ先】
三重県埋蔵文化財センター
調査研究3課（四日市整理所）
〒512-8064 三重県四日市市伊坂町 126-1
TEL / FAX : 059-363-3196
E-mail: maibun@pref.mie.jp
担当：川部浩司